

# 総合的な学習の時間の意義と展望

## Meaning and view of period for integrated study

1K04B176

指導教員 主査 堀野 博幸先生

花山 康太

副査 吉永 武史先生

### 【緒言】

本論文は、「総合的な学習の時間」についての文献や実践を取り上げて、そこから「総合的な学習の時間」の意義と、課題を見出していこうと考えた。「総合的な学習の時間」の創設について、特に中央教育審議会や教育課程審議会の答申を見る限り、教育問題や社会の変化などを適当に捉えており、合理的で妥当なものだったと考える。しかしながら、文部科学省が示した「総合的な学習の時間」の手立てについては、具体性に欠けており、これが後の「総合的な学習の時間」に対する教師の意識を下げる原因の一つになったことは間違いないだろう。

### 【方法】

「総合的な学習の時間」、「ゆとり教育」の文献や、各都道府県教育センターのホームページなどを用いる。1章では、「総合的な学習の時間」の創設に至る経緯を、2章では、「総合的な学習の時間」の実施以降の動向を見ていく。3章では1章、2章を受けて、「総合的な学習の時間」の意義を探る。

### 【結果】

「総合的な学習の時間」に関する文献や実践を取り上げて、評価、意見など「総合的な学習の時間」が学校にどのように受け入れられたのかを見た。「総合的な学習の時間」に関する意見などの結果からは、「総合的な学習の時間」が学校、特に教師から無くしたほうが良いという意見が挙がるほどに評価が低いことが分かり、そ

の原因の一つに教科の学習との関連が不十分であることがわかった。また、実践例として取り上げた宮城教育大学附属中学校の「つばさ教育」においては、教科の学習との関連付けを試みている点は評価できるものの、生徒の反応はどれも漠然としたものであった。

### 【考察】

「総合的な学習の時間」の意義と、課題と展望について「総合的な学習の時間」の意義を、児童・生徒の生きる力の育成のために各学校が試行錯誤を重ねる行為、それ自体にあると考えた。各学校が、生きる力育成のために学習活動を創造するためには、学校の特色や雰囲気、児童・生徒の様子、地域社会との関わりなど、様々な視点から学校教育を見つめることになり、教師の質の向上や学校の活性化などの効果があると考えられる。また、これまでの実践から生まれた課題を活かすことによって、新たな意義を見出していくことも必要である。そこで、今後「総合的な学習の時間」において、より良い学習活動が展開されるためにも、一つの課題を取り上げた。「総合的な学習の時間」に悪戦苦闘している学校は多く、その原因の一つに、「総合的な学習の時間」と教科の学習を対極的なものとして扱っていたことが挙げられる。「総合的な学習の時間」と教科の学習を対極的なものとせず、「総合的な学習の時間」においては学習の意欲の向上を図り、教科の学習においては学力の向上を図り、この二つを関連付けることにより、全体としての学力向上を図り、強いては今日の学力

低下や勉強離れなどの教育諸問題の解決にも通  
じるところがあると考えた。